

勉誠社

中世文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: beb36e1f52
(期限: ~2024年7月31日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: beb36e1f52 (期限: ~2024年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
中世文学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠社】新刊・展示書籍リスト

2023～2024年刊行分（黄色マーカーは展示書籍） **20%引き**

書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価（税込）	割引価格	注文数
■事典・総記■						
世界の絵本・作家 総覧	O.L.V.（おおぶ文化交流の杜図書館ボランティアグループ）・おおぶ文化交流の杜図書館 編	2024/06	30013	22,000	17,600	
世界神話伝説大事典（オンデマンド版）	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036	27,500	22,000	
江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029	35,200	28,200	
アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012	3,080	2,500	
書物学 第25巻 古典籍の文献学—鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725	2,200	1,800	
書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり—近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723	2,200	1,800	
書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ —香雪美術館書画コレクションを支える装幀修理の世界	編集部 編	2023/04	30724	1,980	1,600	
書物学 第22巻 禅寺の学問—相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722	1,980	1,600	
■歴史・文化財・美術史・思想史■						
和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002	4,620	3,700	
近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044	14,300	11,400	
永平廣録 大全—『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017	71,500	57,200	
増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047	9,900	7,900	
戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表/ カストリ雑誌編集委員会 編	2024/05	39,039	3,080	2,500	
増補改訂版 図像学入門—疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014	2,640	2,100	
古文書修復講座—歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修/関口博巨 編	2024/03	32035	4,180	3,300	
三井大坂両替店の顧客信用情報—享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042	16,500	13,200	
「見える」ものや「見えない」ものをあらす —東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012	15,400	12,300	
湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043	7,700	6,200	
器と信仰—東アジアの舍利荘嚴をめぐる美術史・考古学からのアプローチ	加島勝 編	2024/03	32041	16,500	13,200	
彰義隊士の手紙—続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036	22,000	17,600	
日本近世史入門—ようこそ研究の世界へ！	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美	2024/02	32034	4,180	3,300	
コレクションと歴史意識—十九世紀日本のメディア受容と「好古家」の	古畑侑亮 著	2024/02	32038	11,000	8,800	
近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037	11,000	8,800	
朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著/野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039	9,900	7,900	
泰山諸神の信仰の展開—東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018	8,800	7,000	
物語る仏教絵画—童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011	11,000	8,800	
紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝（新コディコロジ	2023/11	39036	4,950	4,000	
国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修/宇都宮啓吾 編	2023/12	31012	13,200	10,600	
増補改訂 江戸の異性装者たち—セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033	3,520	2,800	
古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406	4,180	3,300	
本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030	30,800	24,600	
東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田欽 編	2023/10	32032	13,200	10,600	
江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕（オンデマンド版）	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田恭幸 編	2023/10	80452	27,500	22,000	
重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010	24,200	19,400	
日本人の読書—古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033	13,200	10,600	
機巧の文化史 異聞—海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031	4,950	4,000	
古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405	4,180	3,300	
大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015	11,000	8,800	
野村太郎の狂言入門	野村太郎・杉山和也 著	2023/07	37005	3,080	2,500	
地方史誌から世界史へ—比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028	8,800	7,000	
霊峰の文化史—世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005	3,520	2,800	
江戸時代の貸本屋 —庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029	5,500	4,400	
鞆川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009	10,450	8,400	
モノと権威の東アジア交流史—鑑真から清盛まで	シャルロツテ・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022	5,280	4,200	
深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 —近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子	2023/03	31013	22,000	17,600	
黄泉の国との契約書—東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030	4,180	3,300	
二世紀の川劇—文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007	7,480	6,000	
グレーゾーンと帝国—歴史修正主義を乗り越える生の営み	高綱博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027	5,720	4,600	
文と書—中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008	8,800	7,000	
古代日本の儀礼と音楽・芸能—一場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006	11,000	8,800	
明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025	3,520	2,800	

日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026	13,200	10,600	
鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	館隆志 著	2023/02	31014	14,850	11,900	
中世醍醐寺と真言密教 (オンデマンド版)	藤井雅子 著	2023/01	83170	10,780	8,600	
■ 古典文学・文学史 ■						
新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041	2,420	1,900	
ラテンアメリカ文学の出版文化史—作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040	6,050	4,800	
中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015	16,500	13,200	
球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048	8,800	7,000	
杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447	2,200	1,800	
水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462	3,850	3,100	
川端康成の曖昧な声—日本語の小説における文体と身体との交点	平井裕香 著	2024/03	39038	6,600	5,300	
本 かたちと文化—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011	3,080	2,500	
歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037	8,800	7,000	
訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010	3,850	3,100	
今昔物語集の怪異を読む—巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034	5,280	4,200	
紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035	5,940	4,800	
比較文学で読む十一の出会い—交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032	3,080	2,500	
紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031	10,780	8,600	
日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018	16,500	13,200	
中国古典をどう読むか—規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027	4,180	3,300	
深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010	2,640	2,100	
平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028	16,500	13,200	
杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446	3,300	2,600	
俊頼髓脳全注釈	冢永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・舘野文昭・ 福田亮雄 著	2023/03	39025	16,500	13,200	
学習院本「藤袴」(榊原本僚帖)の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023	16,500	13,200	
近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022	11,000	8,800	
伝承と現代—民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004	8,800	7,000	
源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017	7,150	5,700	
王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024	13,200	10,600	
谷崎潤一郎の世界史—『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020	5,280	4,200	
宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026	12,100	9,700	
フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015	3,520	2,800	
■ 日本語学・言語学 ■						
日本人は漢文をどう読んだか—直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38005	3,520	2,800	
論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523	16,500	13,200	
楷書の秘密—「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005	4,180	3,300	
方言地理学の視界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003	8,800	7,000	
■ 〈アジア遊学〉 ■						
294 秀吉の天下統一—奥羽再仕置	江田郁夫 編	2024/06	32540	3,520	2,800	
293 彷徨する宗教性と国民諸文化—近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539	3,300	2,600	
292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538	3,850	3,100	
291 五代十国—乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537	3,520	2,800	
290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536	3,300	2,600	
289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535	3,520	2,800	
288 東アジアの「孝」の文化史—前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雫雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534	3,520	2,800	
287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曾根原理 編	2023/09	32533	3,080	2,500	
286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波瀾剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532	3,300	2,600	
285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531	3,080	2,500	
284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530	3,080	2,500	
283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・ 榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529	3,520	2,800	
282 列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528	3,300	2,600	
281 神道の近代—アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527	3,520	2,800	
280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526	3,300	2,600	
279 上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525	3,520	2,800	
■ 図書館学・アーカイブ ■						
ひらかれる公共資料—「デジタル公共文書」という問題提起 (デジタルアーカイブ・ベーシック)	福島幸宏 責任編集	2023/11	30303	3,520	2,800	
共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ	鈴木親彦 責任編集	2023/07	30302	3,520	2,800	
デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009	2,310	1,800	
その他の関連書籍 (すべて展示しております)						
日本古典文学を世界にひらく口—EAJS (ヨーロッパ日本研究協会) で発表しよう	横溝博/クレメンツ・レベッカ/ロ ノット・ジェフリー 編	2022/12	39014	4,950	4,000	
京都文化および動植物の国文学的探究—矢野貫一著作集	矢野貫一 著	2022/11	39011	16,500	13,200	
慈円『法華要文百首』全釈	石川一 編	2022/11	39016	9,900	7,900	

室町の学問と知の継承（オンデマンド版） 移行期における正統への	田中尚子 著	2022/11	89156	11,000	8,800	
和漢朗詠集とその享受 増訂新版	三木雅博 著	2022/10	39012	16,500	13,200	
上杉本洛中洛外図屏風の研究 桑実寺縁起絵巻と共に	小谷量子 著	2022/09	32020	9,900	7,900	
伝達と変容の日本建築史—伝わるかたち／伝えるわざ	野村俊一 編	2022/07	35001	3,850	3,100	
史学科の比較史 歴史学の制度化と近代日本	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	32017	6,160	4,900	
中世神道入門—カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修	2022/04	31006	4,180	3,300	
宋版一切経（福州版）調査提要	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	31010	7,150	5,700	
宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	31008	16,500	13,200	
ことば・ほとけ・図像の交響	近本謙介 編	2022/03	31009	13,200	10,600	
コレクションとアーカイヴ	板倉聖哲・塚本磨充 編	2022/01	37000	10,450	8,400	
飛鳥井家歌学の形成と展開	日高愛子 著	2022/01	39006	12,100	9,700	
玄奘三蔵	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/12	31005	13,200	10,600	
聖徳太子信仰とは何か	榎原史子 著	2021/12	31007	4,180	3,300	
合戦図 描かれた〈武〉	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	32013	17,600	14,100	
室町文化の座標軸—遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	32011	10,780	8,600	
説話の東アジア—『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/09	39004	13,200	10,600	
日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/08	31003	13,200	10,600	
もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/07	39001	2,640	2,100	
中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/06	31001	13,200	10,600	
書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/06	30002	17,600	14,100	
創られた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/06	31002	8,800	7,000	
パブリック・ヒストリー入門（オンデマンド版） 開かれた歴史学への挑戦	菅豊・北條勝貴 編	2021/05	82254	4,800	3,800	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301	9,900	7,900	
増補改訂新版 日本中世史入門 論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/02	22280	3,800	3,000	
鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/02	22297	4,180	3,300	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301	9,900	7,900	
中世和歌論 歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	29199	13,200	10,600	
日本画の所在 東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/04	27055	7,150	5,700	
日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/03	20073	7,700	6,200	
歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/02	22257	11,000	8,800	
古典文学の常識を疑う II 縦・横・斜めから書きかえる文学史	松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘 編	2019/09	29183	3,080	2,500	
書籍文化史料論	鈴木俊幸 著	2019/05	22240	11,000	8,800	
和歌を読み解く 和歌を伝える 堂上の古典学と古今伝受	海野圭介 著	2019/02	29176	12,100	9,700	
古典文学の常識を疑う	松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘 編	2018/10	29147	3,080	2,500	
変革期の社会と九条兼実—『玉葉』をひらく	小原仁 編	2018/10	22217	11,000	8,800	
画期としての室町—政事・宗教・古典学	前田雅之 編	2018/10	22219	11,000	8,800	
長篠合戦の史料学—いくさの記憶	金子拓 編	2018/10	22222	5,500	4,400	
南岳衡山と聖徳太子信仰	阿部泰郎・吉原浩人 編	2018/9	21046	7,700	6,200	
中世古今和歌集注釈の世界—毘沙門堂本古今集注をひもとく	人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2018/03	29158	14,300	11,400	
天野山金剛寺善本叢刊 第二期 第三巻 儀礼・音楽・第四巻 要 文・経釈・第五巻 重書	後藤昭雄 監修	2018/02	21212	40,700	32,600	
紙の日本史 古典と絵巻物が伝える文化遺産	池田寿 著	2017/06	22176	2,640	2,100	
夢の日本史	酒井紀美 著	2017/05	22177	3,080	2,500	
天野山金剛寺善本叢刊 第一期 第一巻 漢学・第二巻 因縁・教化	後藤昭雄 監修	2017/02	21211	35,200	28,200	
今昔物語集伝の研究	本田義憲 著	2016/11	29126	16,500	13,200	
孝の風景—説話表象文化論序説	宇野瑞木 著	2016/03	29118	16,500	13,200	
東アジアのなかの建長寺	村井章介 編	2014/11	22101	3,850	3,100	
室町連環 中世日本の「知」と空間	鈴木元 著	2014/10	29084	10,780	8,600	
公卿補任図解総覧 大宝元年（701）～明治元年（1868）	所功 監修／坂田桂一	2014/03	22074	10,780	8,600	
称名寺聖教 尊勝院弁曉説草 翻刻と解題	神奈川県立 金沢文庫 編	2013/10	22070	13,200	10,600	
古今和歌集と礼楽思想	尤海燕 著	2013/06	29055	13,200	10,600	
東アジアの今昔物語集—翻訳・変成・予言	小峯和明 編	2012/06	23012	14,300	11,400	
説話集の構想と意匠—今昔物語集の成立と前後	荒木浩 著	2012/04	29030	13,200	10,600	
書誌学入門	堀川貴司 著	2010/04	20001	1,980	1,600	
書物学 第6巻 「書」が語る日本文化	編集部 編	2015/11	20706	1,650	1,300	
書物学 第7巻 医書の世界	編集部 編	2016/03	20707	1,650	1,300	
書物学 第8巻 国宝 称名寺聖教／金沢文庫文書	編集部 編	2016/08	20708	1,650	1,300	
書物学 第13巻 学問の家の書物と伝授 清原家の営為を探る	編集部 編	2018/08	20713	1,650	1,300	
書物学 第14巻 贋作・偽作	編集部 編	2018/12	20714	1,650	1,300	
書物学 第16巻 特殊文庫をひらく 古典籍がつなぐ過去と未来	編集部 編	2019/07	20716	1,650	1,300	
書物学 第18巻 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクショ	編集部 編	2020/07	20718	1,980	1,600	
書物学 第19巻 紙のレンズから見た古典籍	編集部 編	2022/02	30719	1,980	1,600	
書物学 第20巻 追憶のサムライ 中世武士のイメージとリアル	横浜市歴史博物館 編	2022/10	30720	1,980	1,600	
書物学 第21巻 活字 近代日本を支えた小さな巨人たち	編集部 編	2022/12	30721	1,980	1,600	
アジア遊学						
278 呪術と学術の東アジア アジア遊学	陰陽道史研究の会 編	2022/12	32524	3,300	2,600	
275 「唐物」とは何か	河添房江・皆川雅樹 編	2022/10	32520	3,080	2,500	
273 日本の中世貨幣と東アジア	中島圭一 編	2022/09	32519	3,520	2,800	

272	対馬の渡来版経	横内裕人 編	2022/08	32518	3,520	2,800	
271	儒教思想と絵画	水野裕史 編	2022/06	32517	3,520	2,800	
269	近代中国美術の境界	瀧本弘之・戦暁梅 編	2022/05	32515	3,850	3,100	
265	宗教芸能としての能楽	高橋悠介 編	2022/01	32511	3,300	2,600	
263	室町前期の文化・社会・宗教—『三国伝記』を読みとく	小助川元太・橋本正俊 編	2021/11	32509	3,080	2,500	
261	古典は遺産か？—日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	32507	3,080	2,500	
262	資料論がひらく軍記・合戦図の世界 —理文融合型資料論と史学・文学の交差	井上泰至 編	2021/10	32508	3,520	2,800	
257	交錯する宗教と民族—交流と衝突の比較史	鹿毛敏夫 編	2021/07	32503	3,080	2,500	
252	中世日本の茶と文化—生産・流通・消費をとおして	永井晋 編	2020/09	22718	3,080	2,500	
223	日本人と中国故事—変奏する知の世界	滝川幸司・中本大・福島理子・合山林太郎 編	2019/02	22695	3,080	2,500	
229	文化装置としての日本漢文学—日本人と中国故事 変奏する知	森田貴之・小山順子・蔦清行 編	2018/09	22689	3,080	2,500	
155	もう一つの古典知—前近代日本の知の可能性	前田雅之 編	2012/07	22621	2,640	2,100	

歴史叙述としての 平家物語

定価8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・288頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-39037-4 C3095

成立以来、さまざまなかたちで広く流布し、社会への大きな効力を持ちつづけてきた『平家物語』。現代にいたるまで、源平の時代にたいするイメージや歴史認識に小さからぬ影響を与え続けている。この物語には、史実とは距離のある叙述がところどころに散りばめられている。

史実とは異なる「歴史」を語る『平家物語』の歴史叙述とは、
いったいかなるものなのか。何を語るべく成立したものなのか――

平家嫡流たる小松家にかんする描写のありかたや東大寺の勧進聖、俊乗房重源をめぐる中世の言説などを、これまであまり注目されてこなかった事柄や資料などへ着目し、多角的に検討。

あらたな角度から史実と虚構を含みこんだ『平家物語』の歴史叙述の相貌を照射する。

目次

序

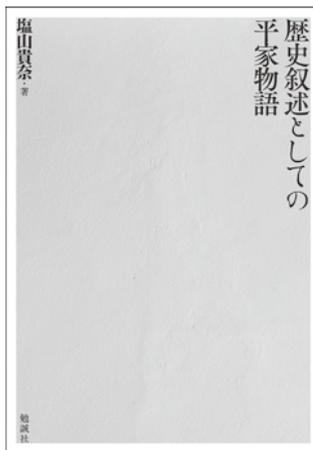
- 第一部 小松家の物語
第一章 土佐守宗実説話成立考
第二章 平重盛の法名をめぐる
第三章 「小松家」のあり方と宗実説話

- 第二部 物語の形成と展開
第一章 頼朝助命譚にみる重盛と頼朝
第二章 「重衡被斬」の成立背景
第三章 興福寺大乘院尋尊の記す源平の時代

- 第三部 中世の言説にみる重源
第一章 重源の入宋をめぐる言説とその展開
第二章 重源像の変遷――「匪直也人」「南無阿弥陀仏」
第三章 重源と東大寺・醍醐寺・高野山の語られ方
第四章 阿波守宗親説話の形成と人物
第五章 『平家物語』の重源

結

あとがき・初出一覧・索引



書名

歴史叙述としての
平家物語
塩山貴奈〈著〉

冊数

定価8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・288頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-39037-4 C3095

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

増補改訂版

本書は二〇一五年一〇月に刊行した『室町時代の将軍家と天皇家』の増補改訂版です。

室町時代の 将軍家と天皇家



定価 9,900円・本体9,000円
A5判並製カバー装・560頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32047-0 C3021

室町期における
中央政体の構造を捉え直し、
新たな時代像を描く

室町期の公武関係はいかにして成立、展開し、終焉にいたったのか。尊氏から義政までの足利家歴代将軍たちの朝廷儀礼における行動の分析。将軍家が「公家化」し、自らを北朝天皇家の「輔弼役(執事)」と位置づけ、強力な一体化を築き上げた実態を明らかにする。また、将軍家が天皇家をサポートし、その権威を保障する体制が室町時代の将軍家と天皇家の基本構造であることを提示する。武家の長(足利将軍家家長)と公家の長(北朝天皇家)との関係の展開と基本構造を検討した画期的成果。

公武関係をはじめ
義満・義教期における
足利将軍家の実態の具体像および、
足利家と天皇家の一体化の過程を
再検討した補論六本を新たに加え、
最新の研究成果をふまえて
加筆・修正した待望の増補改訂版。



石原比伊呂

〈著〉

(いしはら・ひいろ) 一九七六年六月一四日生まれ。聖心女子大学現代教養学部准教授。日本中世史(中世後期公武関係論)専攻。主な著書に『室町時代の将軍家と天皇家』(勉誠出版二〇一五年)、『足利将軍と室町幕府』時代が求めたリーダー像(戎光祥選書ソレイユ、戎光祥出版、二〇一八年)、『北朝の天皇』(室町幕府に翻弄された皇統の実像)(中公新書、二〇二〇年)、編著に『戦国・室町天皇列伝』(光明天皇)戎光祥出版、二〇二〇年)がある。

序章 研究史の整理と本書の視角

第一部 南北朝期の足利将軍家と北朝天皇家

第一章 足利尊氏・直義兄弟と北朝天皇家

第二章 義詮期における足利将軍家の変質

第三章 足利義満の対朝廷政策——「王権篡奪計画説」の再検討

第二部 室町幕府最盛期の足利将軍家と北朝天皇家

第四章 准摂関家としての足利将軍家——義持と大嘗会との関わりから

第五章 足利義持と後小松「王家」

補論一 「大嘗会仮名記」の作者に関する覚え書き

補論二 義満生前の足利義持

第六章 足利義教と義満・義持——朝廷行事における行動の分析から

第七章 足利義教と北朝天皇家

補論三 将軍空位期の室町幕府と公家社会——義円と「条々」

補論四 足利義教の初政

補論五 足利将軍家の規範先例——「義満型」と「義持型」なる二類型

第三部 将軍・天皇関係の本質と帰結

第八章 室町殿行幸に見る足利義教の位置づけ

第九章 貢馬御覧に見る室町時代の公武関係

第十章 義政期の将軍家と天皇家

終章 室町期公武関係の展開と構造——本書の結論

補論六 足利家と天皇家の一体化は、どのように進化したのか？

あとがき・増補改訂版あとがき・初出一覧・索引

書名

〔増補改訂版〕
室町時代の将軍家と天皇家
石原比伊呂〈著〉

冊数

定価 9,900円・本体9,000円
A5判並製カバー装・552頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32047-0 C9000

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

和紙を科学する

製紙技術・ 繊維分析・ 文化財修復

(おおかわ・あきのり)一九四二年生まれ。和紙研究家。専門は製紙技術。論文に「製紙に関する古代技術の研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(増田勝彦と共著「保存科学」20、一九八一年)、「同」22、一九八三年、「同」24、一九八五年)。「古代の造紙技術について」(延世大学校国文学研究院「東方學志」106、一九九九年)、「浮世絵の紙」(日本分析科学会「ふんせき」3、二〇〇三年)などがある。

大川昭典 著

カラー口絵

緒言◎湯山賢一(東大寺ミュージアム館長)

第一部 日本古代の製紙技術

古代の造紙技術について
製紙に関する古代技術の研究◎大川昭典・増田勝彦
製紙に関する古代技術の研究(Ⅱ)——打紙に関する研究◎増田勝彦・大川昭典
製紙に関する古代技術の研究(Ⅲ)——苧麻布・楮の白搗による叩解◎大川昭典・増田勝彦
「特別寄稿」正倉院宝物の紙調査成果における大川昭典氏の功績◎増田勝彦

第二部 和紙の製法と材料

料紙の構造と組成について
和紙つくりについて
楮・雁皮配合紙の手漉き試験
材料からみた和紙の歴史的变化
「コラム」土佐七色紙の復元◎有吉正明

第三部 料紙調査の技法と分析

文書紙の繊維組成及び填料の観察
繊維形態及びC染色液による呈色
浮世絵の紙——時を隔てた二作品の用紙を分析して
箔打紙比較試験

「対談」料紙研究の視点◎大川昭典×湯山賢一

あとがき・初出一覧

図書館・文書館・文化財関係者、必備の書！

古文書・古典籍・絵画など、日本には「紙」の文化財が数多く残されている。これらの料紙には、どのような材料が使用され、どのような漉き方、加工が施されたのか。また、色や大きさを選定する背景には、どのような価値観があったのか——紙はその当時の人びとの心性や文化体系をいまに伝える貴重な史料である。それらの文化財を守り、伝えていくためには、
基盤となる紙の調査・分析を欠くことができない。
四十数年に及び、先駆的に紙の文化財の調査・科学的分析に関わり、料紙の材料や構造・製法の研究において、数多くの実績を残し、修理用紙の作成、料紙の復元などにも尽力してきた著者の知見を初めて集成。現在、大きな展開を見せている「紙」の研究の基盤と歩みを提示する画期的な一冊。



美濃紙の電子顕微鏡写真

定価4,620円・本体4,200円
B5判並製カバー装・256頁(口絵16頁)
2024年6月刊行
ISBN978-4-585-35002-6 C1058

書名	冊数
和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復 大川昭典〈著〉	冊
定価4,620円・本体4,200円 B5判並製カバー装・256頁(口絵16頁) 2024年6月刊行 ISBN978-4-585-35002-6 C1058	
ご送付先ご住所(通信欄)	

物語る仏教絵画

童子・死・聖地

◎ 目次

はじめに

序 神を見ることと描くこと——石清水八幡宮の事例を中心に

第一部 仏画と垂迹画における童子像

——神の家の小公達

- 一 粉河寺の童男行者信仰——フリア美術館蔵伝聖徳太子修業像を中心に
春日の赤童子信仰
- 二 三童形の日吉十禪師像
- 三 熊野曼荼羅の切目王子——神々のヒエラルキー
- 四 越前系の白山垂迹曼荼羅——遊行寺本と国上神社本
- 五 第一部まとめ——童子像は借用され、読み替えられ、まとめられる

第二部 死をめぐる図像

- 一 ボストン美術館本菩提樹像は何を表すものか
 - 二 法華寺蔵阿弥陀三尊及童子図はどのように掛けられたか
 - 三 金戒光明寺蔵地獄極楽図屏風はどのように使われたか
 - 四 聖衆来迎寺本六道絵「天道」幅の主人公は誰か
補論 天人から天女へ——なぜ五衰の天人が女性とされるようになったのか
 - 五 聖衆来迎寺本六道絵人道不浄相幅はなぜ女性なのか
 - 六 聖衆来迎寺本六道絵人道不浄相幅と
九州国立博物館本九相図巻の噺相は何に基づいたか
 - 七 長岳寺蔵六道十王図に天道は描かれていないのか
斜め構図の兜率天曼荼羅図がなぜ描かれたのか
——延命寺本と根津美術館本を中心に
- 第二部まとめ——鎌倉時代、死の文化は多様に展開する

第三部 中国の靈山信仰から日本へ

——観音と靈地信仰

- 一 長沙馬王堆漢墓出土の帛画はなぜT字形状か
 - 二 須彌山石とは何を表したのか——水源伝説としての崑崙山
補論 日本における三山信仰——三山もしくは三峯という構成の根拠は何か
 - 三 水月観音図の創作にどのような先行図様が引用されたか
 - 四 フリア本地蔵十王図と伏羅陀山地蔵図様はどのように成立したか
 - 五 雲乗の十一面観音図様とはどのような意味なのか
 - 六 宮曼荼羅になぜ参詣人が出現したか——普陀山図の影響を考える
補論 粉河寺蔵「南海名山普陀勝境圖」と中国における普陀山図の展開
- 第三部まとめ——現実の靈地に伝説の聖地を重ねる

おわりに

図版出典一覧／初出一覧／索引



山本陽子 [著]

なぜ特異な
仏画が
作られたのか

日本中世において数多く制作された仏教絵画のなかで、類例のない図様を持ち、制作当時とは異なる名称で呼ばれたり、別の信仰の文脈で語られてきたりした経緯をもつ、特異な仏画が存在する。

これらはどのような意図で制作され、何を意味しているのか。そして、なぜ多種多様な形態や伝説を持っているのか。とりわけ「童子・死・聖地」にまつわるこれらの仏画や垂迹画を丹念に読み解き、図像的特徴や成立背景、制作意図を明らかにする。

さらに、これらの仏教絵画が制作された時点における、伝承や説話からの影響関係、受容の様相を探る。

美術史学・説話文学・民俗学研究など隣接諸学に寄与する研究成果。

図版289点掲載！

◎ 著者プロフィール

山本陽子 (やまもと・ようこ)

明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。

著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』（中央公論美術出版、二〇〇六年）、『絵巻の図像学——「絵そらごと」の表現と発想』（勉誠出版、二〇一二年）、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』（勉誠出版、二〇一五年）、『はじめの日本美術史』（山川出版社、二〇一八年）などがある。

書名	部数
物語る仏教絵画 童子・死・聖地 山本陽子 [著]	定価 11,000 円(本体 10,000 円) A5判・上製カバー装・616頁 ISBN978-4-585-37011-6 C3071 2023年10月刊行
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

増補改訂版

図像学入門

疑問符で読む日本美術



本書は『図像学入門——疑問符で読む日本美術』(2015年11月刊行)の増補改訂版です。

もくじ?

- 第1章 釈迦の生涯——仏像の基本
 - 第2章 仏像の種類——4つのタイプ
 - 第3章 曼荼羅——密教世界の地図
 - 第4章 六道輪廻と浄土——人は死んだらどこへゆく?
 - 第5章 神々のすがた
 - 第6章 人のかたち——肖像と似会にせえ
 - 第7章 絵巻物——物語を絵にする
 - 第8章 山水画と花鳥画——神仏でも人でもないもの
 - 第9章 浮世絵
 - 第10章 西洋絵画と日本
- ついでのはなし

観音にはひげがある?
なぜ絵巻は右から左へみるの?
写生画が写真ではない?
絵画や仏像などのさまざまな疑問・謎を
図像解釈学(イコノロジー)から探り、
日本美術の新しい楽しみ方を提案する。
大日如来、幽霊の絵、麗子像など
8つのトピックを追加し、増補改訂版として刊行。

山本陽子 著



(やまもと・ようこ) 1955年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科(美術史)博士課程後期単位取得。博士(文学)。明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』(中央公論美術出版、2006年)、『絵巻の図像学——「絵そらごと」の表現と発想』(勉誠出版、2012年)、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』(勉誠出版、2015年)、『はじめての日本美術史』(山川出版社、2018年)、『物語る仏教絵画——童子・死・聖地』(勉誠社、2023年)など。

定価2,640円・本体2,400円
四六判並製カバー装・272頁
2024年4月刊行
ISBN978-4-585-37014-7 C0071

書名	冊数
増補改訂版 図像学入門 疑問符で読む日本美術 山本陽子<著>	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

器と信仰

東アジアの舍利莊嚴をめぐる 美術史・考古学からのアプローチ

釈迦の遺骨として、アジア各地で篤い信仰を集める「舍利」。

その容れ物である舍利容器は、特定の用途を持つ器形や、

別の文脈で意味を成した図像が複合的に組み合わされ、舍利を莊嚴する器として仕立て上げられた。

それゆえ、「器のかたち」——どこで、どのような器の形状・素材・図様が採用されてきたのかという問題は、

「舍利の意味」——舍利が各地域の社会において

どのような存在として受容されたのかということと相関関係を有している。

十数年にわたり行われた中国・日本・韓国・ベトナムの現地調査を礎とした、

舍利及びその莊嚴に関する最新の知見を三部十四本の論考により提示。

また、資料編では、現地調査にて得られた作例の基礎データ、

また、舍利莊嚴における大きな画期である仁寿舍利塔の網羅的調査記録を提示、貴重な画像資料も収載した。

美術史学界・考古学界のみならず、日本及び東洋の文化史に関わる領域に広く寄与する画期的成果。

カラー口絵
はじめに……加島勝

◎研究編

第1部

●中国・シルクロードにおける舍利容器の形式変遷について……加島勝 ●中国における棺形舍利容器とそのモデル……岡林孝作
●北魏～隋唐時代の舍利埋納方式——地宮・天宮の変遷と舍利容器の組合せを中心に……冉万里

第2部

●隋代における舍利埋納制度について……冉万里 ●仁寿舍利塔の思想と舍利容器……長岡龍作 ●神徳寺石函の図様表現と特色……泉武夫
●隋時代の舍利容器……加島勝 ●臨潼慶山寺舍利地宮壁画試論……楊效俊 ●法王寺2号塔地宮の出土品について……松本伸之 ●扶風法門寺塔の4つの真身舍利と舍利容器……大島幸代

第3部

●法身としての舍利と容れ物——仁寿舍利塔から大仏へ……長岡龍作
●ベトナムクン省トアンタイ県スアンクアン出土の隋仁寿元年舍利石函と舍利塔銘——交州龍編県禪衆寺舍利石函と塔銘調査記……冉万里
●万安禅院石窟西奥壁の仏涅槃図・金棺出現図浮彫等についての概報……泉武夫 ●飛鳥時代の舍利信仰における一側面……岡林孝作

◎資料編

●仁寿元年の第一次仁寿舍利塔に関する資料集成……大島幸代

◆資料集成

岐州鳳泉寺／雍州仙遊寺／嵩州嵩岳寺／秦州岱岳寺／華州思賢寺／衡州衡岳寺／定州恒岳寺／鄭州法講寺／牟州巨神山寺
吳州会稽山寺／同州大興國寺蒲州栖巖寺蘇州虎丘山寺／涇州大興國寺／并州無量壽寺／相州大慈寺／襄州大興國寺／隋州智門寺／益州法聚寺／秦州靜念寺
揚州西寺／鄭州定覺寺／青州勝福寺／亳州開寂寺／汝州興世寺／瓜州崇教寺／番州靈鷲山寺／桂州綠化寺／交州禪衆寺／蔣州栖霞寺
●崇福寺塔心礎納置品の材質調査について……加島勝

◆拓本・碑銘

「拓本」神徳寺石函線刻／山東青州勝福寺「碑銘」重修広福寺記／瑞応寺再葬仏舍利碑／結九品往生社碑
●海外現地調査日誌 2001～2019……岡林孝作・加島勝

あとがき……加島勝

加島勝

〔編〕

（かしま・まさる）一九五六年生まれ。大正大学名誉教授・特選教授、東京国立博物館名誉館員。博士（文学）。専門は仏教工芸史。著書に『柄香炉と水瓶』（日本の美術）五四〇号、ぎょうせい、二〇一一年、『日中古代仏教工芸史研究』（雄山閣、二〇一六年）、『平泉の文化史3 中尊寺の仏教美術彫刻・絵画・工芸』（共著、吉川弘文館、二〇二一年）などがある。

定価 16,500円・本体15,000円
B5判上製カバー装・460頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-32041-8 C3020

<p>書名</p> <h2>器と信仰</h2> <p>加島勝〔編〕</p> <p>東アジアの舍利莊嚴をめぐる 美術史・考古学からのアプローチ</p>	<p>冊数</p> <p>定価 16,500円・本体15,000円 B5判上製カバー装・460頁 2024年3月刊行 ISBN978-4-585-32041-8 C3020</p> <p>冊</p>
<p>ご送付先ご住所（通信欄）</p>	

〈編者〉
外村中
稲本泰生

「見える」ものや 「見えない」ものを あらわす

東アジアの 思想・ 文物・ 藝術

本書の構成

- 第一部 祭祀・墓葬と「見える」もの「見えない」もの
第二部 尊像の誕生
第三部 仏菩薩の姿と「時間」「過程」の表象
第四部 仏身と世界観——盧舎那仏の形と意味
第五部 音を「見せる」／姿を「留める」
第六部 仏菩薩の顕現する場
第七部 「見えない」ものを「とらえる」——付会と図解
第八部 諸教交渉と「見える」もの「見えない」もの
第九部 「見える」「見えない」現象の主体／連鎖するイメージ

「見える／見えない」を論じること、それらを描き出すこと——
宗教や思想、藝術などの人間の営みは、
このことが大変重要かつ普遍的なテーマであることを示している。
東アジアの文物や藝術を解釈する上での共通の基盤の形成をめざすために、
「見えるもの／見えないもの」にまつわる理論や事象について、
従来分野の枠組をこえて国際的にかつ学際的に探求。
宗教・思想をはじめ、考古遺物から彫刻絵画、
建築庭園、芸能音楽などにまで及ぶ様々な論点を、
最先端の研究者二十四名の視角により提示する画期的論集。

執筆者一覧

古勝隆一 向井佑介
森下章司 内記理
魏藝 折山桂子
田中健一 中西俊英
船山徹 高橋早紀子
大平理紗 黄盼
倉本尚徳 瀧朝子
増記隆介 塚本明日香
横手裕 福谷彬
西谷功 重田みち
清水健 吳孟晋

定価 15,400円・本体14,000円
B5判上製カバー装・744頁(+口絵2頁)
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-37012-3 C3071

書名	冊数
「見える」ものや「見えない」ものをあらわす 東アジアの思想・文物・藝術 外村中・稲本泰生(編)	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

序にかえて……外村中

第一部 祭祀・墓葬と「見える」「見えない」もの

后稷は天に配せられたのか——『詩』大雅「生民」から『孝経』へ……古勝隆一
漢魏晋墓の神坐と墓主画像——墓のなかの「見えるもの」と「見えないもの」……向井佑介

第二部 尊像の誕生

西王母像の系譜と像の崇拜……森下章司
仏像の出現について……内記理

第三部 仏菩薩の姿と「時間」「過程」の表象

南北朝期中国仏教における十地思想の再検討——四果と十地の関係を手がかりに……魏藝
莫高窟隋代の弥勒経变相図付近に描かれた二菩薩像……折山桂子
日本仏教造像史と久遠の釈迦……田中健一

第四部 仏身と世界観——盧舎那仏の形と意味

『大方広仏華嚴経』における「ヴァイローチャナ」とその教理的解釈……中西俊英
盧舎那仏の可視性と立像……船山徹
「法界仏像」における諸形象の表象意識——キジル石窟第十七窟両像と敦煌莫高窟第四二八窟像を中心に……高橋早紀子

第五部 音を「見せる」／姿を「留める」

雲岡石窟にあらわされた楽器について……大平理紗
供養者画像からみる雲岡石窟大型窟の造営……黄盼

第六部 仏菩薩の顕現する場

晩年の道宣による天竺中土説の克服——見えないものによる三宝の住持と見えるものとの感応……倉本尚徳
鏡像／線刻鏡の考察——画像を見いだす……瀧朝子
宋代仏画における清浄華院「阿弥陀三尊像」の史的位位置……増記隆介

第七部 「見えない」ものを「とらえる」——付会と図解

太極殿および大極殿をめぐる文学作品四篇訳注……古勝隆一
見えない天意を見せるもの——正史「五行志」の役割……塚本明日香
医家と道家と体内観……横手裕
道学における周惇頤顯彰と『太極図説』への注目……福谷彬

第八部 諸教交渉と「見える」「見えない」もの

道家系と儒家系と伊勢神道の「一なるもの」——「一なるものは「道」か「気」か……外村中
北宋大中祥符年間における舍利莊嚴の位相——長干寺阿育王塔の埋納を中心に……稲本泰生
涅槃会の変遷と涅槃図——東アジア仏教社会における「忌日」を視点に……西谷功

第九部 「見える」「見えない」現象の主体／連鎖するイメージ

幽霊能におけるまぼろし——〈幻〉と見える——見えない——の歴史と変遷……重田みち
神宝より見える、見えない日本の神々の姿……清水健
明清絵画にみる文人器玩のあり方……呉孟晋

あとがき……稲本泰生
執筆者紹介



近世長崎渡来人文運史

言語接触と文化交流の諸相

近世日本において、東アジア各地より渡来した異国人たちは、さまざまな分野において多大な影響を与えた。通事(通訳)となった者、詩を通し日本の文人たちとかかわった者、政治的に活躍した者…。異国人たちはどのように日本で活躍し、どのような思想、文学作品を遺したのか。彼らがたどり着いた「長崎」という場を軸に、様々な資史料を検証し、文化交流の諸相を明らかにする。

定価 14,300円・本体13,000円
A5判上製カバー装・704頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32044-9 C3021

目次

前言

- 第一部 海峡渡航者と日本
- 一 藤原惺窩筆談考——「達徳」への道
 - 二 朝鮮通信使と石川丈山——「日東の李白」考
 - 三 〈翻刻〉石山丈山自筆原翰「與朝鮮國權學士菊軒筆談書」
 - 四 雨森芳洲小考——唐話の師國思靖
 - 五 雨森芳洲の語学書

- 第二部 明清交代と長崎
- 一 隠元——「万国の春」を心に
 - 二 鐵心道胖の文事——「聖福八景」詩原卷とその時代
 - 三 牛込忠左衛門の詩宴——「長崎八景」
 - 四 「彦山勝景詩集」の詩人・文人——八景・十二景の表象

- 第三部 渡来人の系譜
- 一 近世渡来人の系譜——「訳司統譜」から
 - 二 唐通事・林道栄の生活と文事——雅俗訳通
 - 三 唐通事・劉宣義の生活と文事
 - 四 都へ出た唐通事——劉國南
 - 五 東京通詞魏氏の家系——魏五左衛門龍山を中心に
 - 六 唐話会と江戸文学
 - 七 「唐通事由来書考」

- 第四部 長崎聖堂とその周辺
- 一 向井元升事略——入洛前後
 - 二 向井元升著述考——東西文化の接触
 - 三 盧氏の系譜
 - 四 高玄岱の文事——宝永・正徳期
 - 五 新出・高玄岱「鐘山遊記」について
 - 六 高玄岱自筆卷子本「心田菴記」について
 - 七 大潮元皓の生涯
 - 八 「瓊浦遊草」の世界——大潮元皓の長崎滞在
 - 九 高階陽谷——その風貌と逸詩
- あとがき・初出一覧

若木太一・著



一九四二年生まれ。長崎大学名誉教授。著書に『長崎聖堂祭酒日記』(共編著、関西大学東西学術研究所、二〇一〇年)、『新長崎市史』第二巻近世編(共著、長崎市、二〇一二年)、『長崎・東西文化交流史の舞臺』(共編著、勉誠出版、二〇一三年)、『長崎先民伝注解』(近世長崎の文苑と学芸)(共編著、勉誠出版、二〇一六年)などがある。



書名	冊数
近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	冊
若木太一〈著〉	
定価 14,300円・本体13,000円 A5判上製カバー装・704頁予定 2024年5月刊行 ISBN978-4-585-32044-9 C3021	
ご送付先ご住所(通信欄)	

三井大坂両替店の顧客信用情報

享保一七年から
明治二年まで

三井大坂両替店が近世から明治初期にかけて残した顧客の信用調査の全貌を明らかにする貴重資料！

三井家の元祖・三井高利は、江戸呉服店開業ののち、

呉服の仕入れを円滑にするために、

為替・両替・融資業務を担当する両替店の設置を進めた。

江戸を皮切りに、京都・大坂へと版図を広げた両替店成功の背景には、

「果たしてその顧客に融資し、確実に回収できるのかどうか」を

判断するための信用管理システムがあった。

これまで全貌が明らかにされてこなかった、

享保17年(1732)から明治2年(1869)まで

欠年なしで残された三井大坂両替店の信用調査書

(「日用留」「日用帳」「聴合帳」を翻刻し、

参照・検索しやすいようデータベース化して掲載。

調査対象件数は実に3,108件、

複数が連印で借入を希望した場合も多々あり、

それらを含めると調査対象人数は3,825名にも及ぶ。

大商人から借家人に至るまで、大坂両替店の手代が入念に調べた

顧客の提供担保(所有する家屋敷や品物)や

年齢、家族構成、人柄、業種、家計(経営)状態を

知ることができる必備のレファレンスツール。

萬代悠

〔編〕(まんだいゆう)一九八七年大阪府堺市生まれ。

二〇一五年関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程文化歴史学専攻日本史学領域単位取得退学。二〇一六年博士(歴史学)〔関西学院大学〕。現在、公益財団法人三井文庫研究員。主要業績に、『近世畿内の豪農経営と藩政』(塙書房、二〇一九年)、『三井大坂両替店 銀行業の先駆け、その技術と挑戦』(中央公論新社、二〇一四年)、『Stabilize the peasant economy: Governance of foreclosure by the shogunate』(with Masaki Nakabayashi), Journal of Policy Modeling, Vol. 40, Issue 2, 2018, pp. 305-327, 48-49。

〔目次〕

カラー口絵

目次

刊行にあたって

凡例

信用調査書(「日用留」「日用帳」「聴合帳」)

享保一七年(一七三二)「日用留」(本二四八)

寛保三年(一七四三)「日用帳」(本三五一)

宝暦二年(一七五二)「日用帳」(本二四九)

宝暦八年(一七五八)「日用帳」(本二五〇)

宝暦十一年(一七六六)「日用帳」(本二五一)

安永六年(一七七七)「日用帳」(本二五二)

天明三年(一七八三)「日用帳」(本二五三)

寛政七年(一七九五)「日用帳」(本二五四)

文化九年(一八二二)「日用帳」(本二五五)

文政九年(一八二六)「聴合帳」(本三七八)

弘化三年(一八四六)「聴合帳」(本三七九)

嘉永七年(一八五四)「聴合帳」(本三八〇)

万延元年(一八六〇)「聴合帳」(本三八一)

附録

語句説明・主要手代一覧・参考文献

大坂三郷概略図・絵図

解題

一 信用調査書の史料性格

二 信用調査書の歴史的意义(一)

三 信用調査書の歴史的意义(二)

四 信用調査書の歴史的意义(三)

五 信用調査書の歴史的意义(四)

六 信用調査書の歴史的意义(五)

索引

定価 一六,五〇〇円(本体一五,〇〇〇円)

B5判・並製・七六八頁

二〇二四年三月刊行

ISBN978-4-585-32042-5 C3021

書名	部数
三井大坂両替店の顧客信用情報 享保一七年から明治二年まで 萬代悠〔編〕	部
定価 16,500円(本体 15,000円) B5判・並製・768頁 ISBN978-4-585-32042-5 C3021 2024年3月刊行	
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

日本近世史入門

ようこそ研究の世界へ!

現代を生きる私たちから少し遠いが、遠すぎない時代——近世。

近世の人々の息遣いを伝える史料はそこかしこに残されており、幕藩権力・朝廷から民衆までの様々な視点、政治・経済・対外関係・宗教・思想・ジェンダー・環境といった様々な関心からアプローチすることが可能である。新たな出会いの宝庫である日本近世史（織豊期・江戸時代）の魅力伝えるために、各研究テーマの来歴や現状のみならず、論文執筆のノウハウ、研究上の暗黙知、さらには秘伝(?)までを余すところなく紹介。残された史料と対話し、時代をこえて多様な生き方や考え方に向き合うための方法論を伝授する。

近世への扉を開くカギはここに用意されている!

I 近世史への招待

近世史研究を始め——吉村雅美
コラム◆日本近世史を社会に活かすには——小田真裕

II 近世史の論点

時代区分論◆「近世」という言葉をめぐってどんな議論が繰り広げられてきたのか——清水光明
織豊政権論◆国家と社会の統合——谷徹也
幕藩制の確立◆近世前期の政治史を考える——三宅正浩
幕府機構論◆江戸幕府のしくみと政治のあり方を考える——小倉宗
幕藩制改革◆近世の政治・社会を読み解く——小関悠一郎
幕藩制の展開◆近世後期の政治史を考える——山本英貴
近世の天皇・朝廷◆近世日本のなかでの位置づけ——村和明
対外関係◆近世日本の「内」と「外」——吉村雅美・酒井雅代・木土博成
身分制社会論◆現代とは異なる社会をとらえる——牧原成征
コラム◆近世史を学ぶことの現代的意味——多和田雅保
在地社会◆地域の歴史から広がる論点——小松賢司
コラム◆地域史の研究課題を深めるために——多和田雅保
都市社会◆近世における都市のプレゼンス——多和田雅保
商人・交通・産業◆資本主義とは異なる経済社会の姿——牧原成征・村和明・多和田雅保
貨幣・金融◆お金のやりとりに見る近世社会の特質——高槻泰郎
朝幕財政論◆「お金」から考える幕府と天皇・朝廷——佐藤雄介
藩財政論◆多様な藩財政像を描き出す——伊藤昭弘
宗教と社会◆近世人と宗教の関係を体系的に理解する——上野大輔
生活と文化◆今と自分を見つめ直したいあなたに——小田真裕
思想史◆日本史にとつての江戸時代の思想——三ツ松誠
幕末・維新◆広い視野で明治維新をとらえる——後藤敦史
コラム◆世界に開かれた日本史学へ——彭浩

慶應義塾大学文学部准教授
上野大輔
東京大学グローバル地域研究機構
特任研究員
清水光明
佐賀大学
地域学歴史文化研究センター准教授
三ツ松誠
日本女子大学文学部准教授
吉村雅美

〈編〉

定価4,180円・本体3,800円
A5判並製カバー装・432頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-32034-0 C0021

書名	冊数
日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ! 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美(編)	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

古畑侑亮 [著]

コレクションと

歴史意識

十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし

書籍や古器物の蒐集に明け暮れた「好古家」のコレクションから、十九世紀の歴史意識に迫る

ヒト・モノ・情報の流通が成熟していった十八世紀半ば、

それらをひたすらに集め、記録し、

「過去」に想いを馳せる人々が各地に現れてきた

——古いものに強いこだわりをもった彼らは、

「好古家」と呼ばれるようになる。

「好古家」たちは、明治の世を迎えてからも古いものへの関心を失うことはなかった。

前時代の学者に憧れ、それまでの学問蓄積やネットワークを引き継ぎつつ、

新しい学知やメディアをも使いこなすことで知識を深め、

「江湖」に同好の士を求めていったのである。

ときに新聞・雑誌に載って共有・発信されたその営為の痕は、

いまま刊行物やコレクションとして遺され、

歴史学をはじめとした人文学研究の基盤となっている。

幕末・明治という転換の時代を生きた一人の「好古家」に視座を置き、

彼が遺した書簡や紀行文、編纂物を手がかりとしてそのコレクションを紐解く。

そこから見えてくるのは、蒐集活動の実態と

古いものへ注がれた熱いまなざしである。

大学という制度や学知が確立する以前の在野における歴史考証の実相と

アカデミズムへの継承を描き出す画期的著作。

目次

序章 「好古家」のコレクションに歴史意識を探る

第一部 「好古家」の蒐集活動と近代メディア受容

第一章 随筆による知識の蒐集と活用

第二章 新聞・雑誌の購読と読者共同体

第三章 随筆からみえる歴史意識

第四章 新井白石著作の蒐集と予約出版

第二部 「好古家」のまなざしと歴史意識

第五章 考古学的知識の受容と遺跡・遺物へのまなざし

第六章 旅先でのまなざしと歴史意識

第七章 旧旗本領における交友と同時代認識

第八章 小田原衆所領役帳をめぐる交友と歴史研究

終章 「好古家」のコレクションからみえる十九世紀の歴史意識

あとがき

初出一覧

巻末付表「1-1」『不如学齋叢書』叢書項目・出典一覧

索引

定価 11,000円(税込)

[本体価格 10,000円]

A5判・上製カバー装・408頁

ISBN978-4-585-32038-8 C3021

二〇二四年二月刊行

著者プロフィール

古畑侑亮

(ふるはた ゆうすけ)

一九九〇年生まれ。二〇二一年、一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。

一橋大学大学院社会学研究科特任講師(ジュニアフェロー)などを経て、現在、親鸞仏教センター嘱託研究員。

専門は日本近世史・19世紀史学。論文に「刊行物にみる金沢甚衛の横顔」(『社会事業の実践と歴史研究を中心』(『大倉山論集』第66輯、二〇二〇年)、「明治初期の旧旗本領におけるネットワークと歴史意識」(『久松義典の旧知行所を事例として』(『人民の歴史学』第23号、二〇二一年)、「幕末における国学者の文献考証と遺跡認識」(『色川三三「黒坂命墳墓考」稿本の比較から』(『土浦市立博物館紀要』第33号、二〇二三年)などがある。

書名	部数
コレクションと歴史意識 十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし 古畑侑亮 [著]	部
定価 11,000円(本体 10,000円) A5判・上製カバー装・408頁 ISBN978-4-585-32038-8 C3021 2024年2月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

増補改訂

クロストレッサー

江戸の異性装者たち

セクシュアルマイノリティの理解のために

長島淳子〔著〕

多様な性のかたち。
性規範のもとで葛藤・苦悩する人々。

男装を禁止されても止めず遠島に処された女、

女装姿で貸金業を営み女に求婚した男、

男同士の夫婦、陰間茶屋で男色に従事する美少年たち――。

社会規範からの逸脱の実態を記録した

事件史料を読み解く。

第五章として、

「セクシュアルマイノリティ研究の現在」の

一章を増補し、装いを新たに刊行！

好評につき、
2017年刊行の
『江戸の異性装者たち』を
最新の動向をふまえ
増補改訂して
刊行!!

増補改訂版にあたってははじめに
はじめに



第一章

女性の異性装をめぐる罪

第一節 たけの最初の罪

第二節 たけ、再登場

第三節 近世ヨーロッパとの比較

第二章

男性の異性装と男色の歴史的位相

第一節 青山千駄ヶ谷、お琴の一件

第二節 歌舞伎と男色

第三節 江戸の男色をめぐる諸規制

第四節 服装規制にみる近代・近世

第三章

男性カッパルたち

第一節 鳶職金五郎と女髪結はつのケース

第二節 縫箔職重吉と新内師匠小若のケース

第四章

多様な愛のかたち――レズビアン／シスター

第一節 女性同性愛をめぐる動向

第二節 江戸の女性同性愛

第三節 入水事件から愛のかたちを問う

第五章

セクシュアルマイノリティ研究の現在

第一節 出版後の反響と美術館の企画展示

第二節 滝沢馬琴の『兔園小説 余録』

第三節 『兔園小説 余録』収載の二人の記事

【著者略歴】

長島淳子（ながしま あつこ）
早稲田大学大学院文学研究科
博士課程後期満期退学。日本近
世史、女性史専攻。博士（文学、
早稲田大学、二〇〇五年）。国士
館大学非常勤講師。これまで早
稲田大学、千葉大学、上智大学、
川村学園女子大学、群馬大学大
学院などで勤務。元総合女性史
学会代表。主な著書に『幕藩制
社会のジェンダー構造』（校倉
書房、二〇〇六年）などがある。

定価二二、五二〇円（税込）
本体三二、〇〇円

四六判並製カバー装・三二二頁
二〇二三年十二月刊行
ISBN978-4-585-32033-3 C1021

書名	増補改訂 江戸の異性装者たち セクシュアルマイノリティの理解のために 長島淳子〔著〕	部数	部
ご送付先ご住所（通信欄）	定価3,520円（税込）・本体3,200円 四六判並製カバー装・312頁 2023年12月刊行 ISBN978-4-585-32033-3 C1021		

岡雅彦 編

国文学研究資料館名誉教授。専門は江戸文学（咄本・言語遊戯・一休俗伝など）、書誌学研究。著書に『一休ばなし』とんち小僧の来歴（平凡社、一九九五年）、『日本古典籍書誌学辞典』（共編、岩波書店、一九九九年）、『江戸時代初期出版年表』（共編、勉誠出版、二〇一一年）、論文に『古活字版曾我物語の絵組みについて』（『かがみ』32・33合併号、一九九八年）などがある。

江戸時代前期出版年表

〔万治元年～貞享五年〕

定価 二五、二〇〇円（税込）
（本体三三、〇〇〇円）
B5判上製函入・一二二〇頁
二分冊・分売不可
二〇一三年三月刊行
ISBN978-4-585-32029-6 C3021

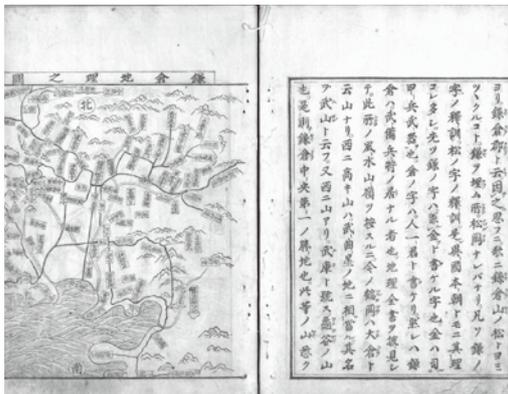
出版文化の華開いた江戸時代前期

万治元年（一六五八）から貞享五年（一六八八）に刊行された出版物の総合年表。

どのような本が刷られ、読まれていたのか。江戸文化を記憶し、今に伝える

刊記情報を網羅掲載！

文学・歴史・出版史・書誌学・図書館学の研究者、図書館必備の一冊。



◆ 本書の特長

- ・万治元年（一六五八）から貞享五年（一六八八）に刊行された八千七〇〇点超の書物を掲載。
- ・刊記を有するものはその全文を掲載した。
- ・掲載書物は、基本的に編者による実見を旨とし、十分な先行研究によって確認できる書籍や、所蔵元不明で実見が適わない書籍はそれを明示のうえ掲載した。
- ・刊行された年月順に構成。刊行年月は、主として行本の刊記に基づいた。
- ・各書物について、「書名」「著者」「刊記」「所蔵」の項を設けた。
- ・巻頭に口絵を掲載。貴重な書籍図版を収録。利便性を考慮し、「書名」および「版元名」索引を附した。
- ・本書は『江戸時代初期出版年表』（二〇一一年刊）の続巻となり、これら二冊を通じて出版文化の黎明期である約一〇〇年間の文化の様相を俯瞰できる。

書名	冊数
江戸時代前期出版年表 〔万治元年～貞享五年〕 岡雅彦 編	冊
定価 35,200円・本体32,000円 B5判上製函入・1120頁（二分冊・分売不可） 2023年3月刊行 ISBN978-4-585-32029-6 C3021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

日本古典文学を世界にひらく EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)で発表しよう

横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー〈編〉

ヨーロッパにおける日本学は長い伝統を有しており、
ハイレベルかつバラエティに富んだ視角は、世界規模での学的影响を与え続けている。
そのヨーロッパ日本学の最先端を伝える研究集会が、
1973年設立されたEAJS(ヨーロッパ日本研究協会)による国際会議である。
本書では2021年に開催された同集会における日本古典文学を考えるための
新視点を提示する充実のパネル4点を収載。
日本古典文学を世界にひらいていく研究視角、方法論の
パイロットケースを提示、EAJSの歩みや参加のためのhow toも示し、
これからの日本研究・日本学の未来を構築するための手引きとなる貴重な一書。

定価 **4,950**円(税込)
本体4,500円
A5判・並製カバー装・368頁
ISBN 978-4-585-39014-5 C1090
2022年12月刊行

【もくじ】

はしがき

EAJS大会の開催都市一覧(1973~2021)

第一部 『源氏物語』のパトロン・藤原道長と紫式部の〈戦略〉

テーマコンセプト ●横溝博

『源氏物語』の勝利——「総合」巻における主家賛美の方法と紫式部 ●横溝博
「源氏」の物語という〈企て〉

——藤原道長と紫式部と「作り手」の人々 ●中西智子

藤原道長の影の元で——『紫式部日記』における摂関政治の方法と
中宮サロンの営みの意義 ●ネグリ・カロリーナ

第二部 〈平安文学〉の歴史的構成——再発掘される「既成事実」

テーマコンセプト ●ノット・ジェフリー

『枕草子』本文の受容と変容——諸本間の本文異同と「女」「女房」「乳母」を
めぐる記述の差異から ●山中悠希

中世源氏学の心理的転換——宗祇流の性格を求めて ●ノット・ジェフリー
「つくりものがたり」の位相 ●小川陽子

第三部 写本研究の未来——マテリアリティー、

テキストマイニング、データ基盤の構築

テーマコンセプト ●海野圭介

書誌学的本文研究の未来

——「定家手沢本源氏物語」を事例として ●佐々木孝浩

変体仮名を用いて写本の書写者と書写年代に迫る

——その方法と事例 ●齊藤鉄也

大規模画像蓄積からデータ駆動型の研究へ——EAJS 2021における特別企画
The future possibilities of DH in Japanese Studiesの報告から ●海野圭介

第四部 文化資本の所有者

——近世の武士社会における教養人の交換と使用について

テーマコンセプト ●クレメンツ・レベッカ

豊臣秀吉と『源氏物語』 ●新美哲彦

柳沢吉保の文化資本としての女性たち ●ローリー・ゲイ

異言語を話す——日本の大名や禅僧における唐話の意味、一六六一〜一七一
一 ●クレメンツ・レベッカ

EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)の過去と現在——過去三十年間の大会を振
返りながら ●フトソン・マイケル／緑川真知子

【参考資料】EAJS 2021 Abstracts

あとがき ●横溝博

【編者紹介】

横溝博(よこみぞ・ひろし)

1971年生まれ。博士(文学)。東北大学大学院教授。専門は中古・中世物語文学。

クレメンツ・レベッカ(Rebekah CLEMENTS)

1979年生まれ。博士(ケンブリッジ大学)。ICREA Professor, Department of
Translation, Interpreting and East Asian Studies, Autonomous University
of Barcelona. 専門は日本史・日本文学史。

ノット・ジェフリー(Jeffrey KNOTT)

1980年生まれ。博士(スタンフォード大学)。国文学研究資料館助教。
専門は室町後期~戦国期の古典学。

書名	部数
日本古典文学を世界にひらく EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)で発表しよう 横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー〈編〉	定価4,950円(本体価格4,500円) A5判・並製カバー装・368頁 2022年12月刊行 ISBN 978-4-585-39014-5 C1090
ご送付先ご住所(通信欄)	部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

日本人は漢文を どう読んだか 直読から訓読へ

湯沢質幸 [著]

日本において古代から現在に至るまで
延々と読み継がれてきた漢文。
その読み方には
中国から渡来した中国音で読む〈直読〉、
そして、平安時代に生まれ、
漢文読解の方法としてその地位を確立した〈訓読〉の
二種類が存在する。
しかし、古代から現代までの間に〈直読〉は消え、
日本語で読む〈訓読〉がもっぱら使われるようになった。
なぜ、日本では〈訓読〉優位の状況が生じたのか――
漢文を取り巻く環境を一つ一つ分析することを通して、
〈直読〉から〈訓読〉への変化を追い、
日本人の漢字漢文受容の歴史を描きます。

目次

本書の目的

凡例

第一章 直読と訓読

――現代と平安時代――

第二章 平安時代儒学界の直読と訓読

――『宇津保物語』と『北山抄』『江家次第』――

第三章 〈直読から訓読へ〉

――直読の衰退――

第四章 平安時代の訓読

――『白氏文集』――

第五章 『宇津保物語』併存の再検討

第六章 平安時代儒学界と直読

第七章 儒学界と仏教界

第八章 〈直読から訓読へ〉の周辺

結語

参考文献

後記

執筆者紹介

(ゆざわ・ただゆき)一九四三年群馬県前橋市生まれ。

専門は日本語史研究。東京教育大学文学研究科修士課程
修了。博士(文学)筑波大学。佐伯国語学賞。山形大学 筑波
大学・京都女子大学に勤務。

著書に『唐音の研究』(勉誠社、一九八七年)、『日本漢字音
史論考』(勉誠社、一九九六年)、『古代日本人と外国語』(同
増補改訂) (勉誠出版、二〇一一年)、『音声・音韻探求法』
(松崎寛と共著、朝倉書店、二〇〇四年)、『近世儒学韻学
と唐音』(勉誠出版、二〇一四年)、『漢字は日本でどう生き
てきたか』(開拓社、二〇一七年)などがある。

定価 3,520 円(本体価格 3,200 円)

四六判・並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-38006-1 C1081
2024年5月刊行

書名	部数
日本人は漢文をどう読んだか 直読から訓読へ 湯沢質幸 [著]	部
定価 3,520 円(本体 3,200 円) 四六判・並製カバー装・240頁 ISBN978-4-585-38006-1 C1081 2024年5月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

江南和幸・佐藤 悟・横井 孝(新コディコロジー研究会)……〈編〉

龍谷大学名誉教授

実践女子大学教授

実践女子大学名誉教授

目次

紙の レンズが ひらく 古典籍・絵画 の世界



定価4,950円・本体4,500円

A5判並製カバー装・280頁
2023年11月刊行
ISBN978-4-585-39036-7 C3090

「紙」は何を伝えているか——

古典籍や絵画、文書など、東アジアには紙を基底材とした文化財が数多く伝来している。そこで使用される紙は、原料や加工処理により、さまざまな表情を残している。これらの紙は、どのように作られ、選択され、流通したのか。文学的・書誌学的・文献学的研究と、高性能デジタル顕微鏡観察や蛍光X線分析による非破壊科学的分析研究とを一体とした「新コディコロジー」により、紙そのものが持つ情報と、その背景にある歴史・社会・経済・政治といった文化状況までもが明らかになりつつある。料紙研究の最先端を伝え、また、これからの課題をも提示する貴重な一冊。掲載図版200点超!

カラー口絵

序言 紙は文化のインフラ
——新コディコロジーの可能性
佐藤悟

第1部……「紙」を科学する視点
古写本学(Codicology)と
紙の科学的分析学(Papyrography)との邂逅
江南和幸

手漉き和紙、とくにコウゾの製造から紙へ
——デジタル顕微鏡でここまで分かる
澤山茂

デジタルマイクロスコープを用いた
和紙の表面粗さの計測とその精度
大和あずか

第2部……非破壊分析が明かす美術・古典籍
エルミタージュ美術館レンブラント銅版画コレクション用紙に
用いられた和紙の顕微鏡分析
江南和幸・岡田至弘

文理融合の研究手法でひも解く『大清聖祖仁皇帝實録』の歴史
——大紅綾本と紫綾本の紙質分析から
徐小潔

科学分析が明かす浮世絵を作り上げた紙の姿
江南和幸・岡田至弘・佐藤悟

国文学・美術とハイテク分析機器
——コメ澱粉粒の反射偏光顕微鏡観察および浮世絵の色分析を例に
日比谷孟俊・澤山茂・大和あずか

第3部……非破壊分析による国文学研究
光学的観点に基づく料紙解析から
古筆切のツレを認定する際の課題と対策
舟見一哉

為家本源氏物語幻の巻の研究
——高精細デジタル顕微鏡・高解像度スキャナ・
蛍光X線分析器による紙質調査を通して
横井孝・澤山茂・日比谷孟俊

明融と打紙、そして明融本源氏物語のことなど
上野英子

あとがき
横井孝

執筆者紹介
Abstracts/ 英文要旨

書名	冊数
紙のレンズがひらく 古典籍・絵画の世界 江南和幸・佐藤 悟・横井 孝(新コディコロジー研究会)〈編〉	定価4,950円・本体4,500円 A5判並製カバー装・280頁 2023年11月刊行 ISBN978-4-585-39036-7 C3090
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

日本人の読書

古代・中世の学問を探る

佐藤道生 [著]

人びとは何を讀み、どのように學んできたのか——
古代・中世の日本において、書物を読み、解釈し、
伝えていくことは、限られた人びとにのみ許される
特権的な営みであった。

特に中国大陸ないしは朝鮮半島經由で伝えられた
漢籍(漢語で書かれた書物)は、国家を支える政治や法、

さらには思想や文化体系を伝える最先端のものとして重要視された。
中国の文化全般を学ぶことを目的とした

これらの学問——漢学——は、国家の制度のなかにも位置付けられ、
それを担う家では、書写・刊行された諸種の漢籍を入手し、

独自の学問を形成していった。

書物に残された注釈の書き入れ、来歴を伝える識語、
古記録や説話に残された漢学者の逸話など、

漢籍の読書の高まりをいまに伝える諸資料から

古代・中世における日本人の読書の歴史を明らかにする。

本書ではじめてフルカラー公開する資料

『清涼山伝』◎『文選集注』巻七断簡◎『文選集注』巻百十一断簡

金澤文庫本『文選集注』巻六十一残簡◎『論語』清原業賢書写・加點本

慶應義塾図書館蔵『論語』天文版清原枝賢加點本

『佐保類切』『施氏七書講義』断簡◎『佐保類切』『施氏七書講義』残簡

『道德経切』『老子道德経』断簡

著者プロフィール

佐藤道生(さとう みちお)
一九五五年生まれ。慶應義塾大学名誉教授。専門は古代・中世日本漢学。主な著書に『平安後期
日本漢文学の研究』(笠間書院、二〇〇三年)、『三河風来寺旧蔵曆応二年書写和漢朗詠集影印
と研究』(勉誠出版、二〇一四年)、『句題詩論考——王朝漢詩とは何ぞや』(勉誠出版、二〇一六年)、
『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討』(『変革期の社会と九条兼実——『玉葉』をひらく』
勉誠出版、二〇一八年)などがある。

目次

カラー口絵

◎本 篇

第一章 古代・中世日本人の読書

第二章 日本に現存する漢籍古写本——唐鈔本はなぜ読み継がれたのか

第三章 古代・中世漢文訓詁史

第四章 平安貴族の読書

第五章 藤原道長の漢籍蒐集

第六章 藤原兼実の読書生活——『素書』と『和漢朗詠集』

第七章 養和元年の意見封事——藤原兼実「可依変異被行攘災事」を読む

第八章 『論語疏』中国六世紀写本の出現

第九章 平安時代に於ける『文選集注』の受容

第十章 金澤文庫本『春秋経伝集解』、奥書の再検討

第十一章 室町後期に於ける『論語』伝授の様相

——天文版『論語』の果たした役割

第十二章 清原家の学問と漢籍

——『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十三章 吉田家旧蔵の兵書

——慶應義塾図書館蔵『七書直解』等の紹介を兼ねて

第十四章 『佐保切』追跡

——大燈国師を伝称筆者とする書蹟に関する考察

第十五章 伝授と筆耕——呉三郎入道の事績

第十六章 『古文孝経』永仁五年写本の問題点

第十七章 猿投神社の漢籍古写本

——『史記』『春秋経伝集解』の書写者を探る

◎附 篇

第十八章 『朝野群載』卷十三の問題点

第十九章 日本漢学史上の句題詩

第二十章 『本朝麗藻』所収の積算詩——句題詩の変型として

第二十一章 藤原有国伝の再検討

第二十二章 大江匡房と藤原基俊

第二十三章 大江匡房の著作と『新撰朗詠集』

第二十四章 平安後期の文章得業生に関する覚書

第二十五章 『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討

第二十六章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

あとがき／初出一覧／図版一覧／索引

貴重資料の
図版収録点数
総50超!

定価 13,200 円(本体 12,000 円)
A5判・上製カバー装・
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

書 名	部 数
日本人の読書 古代・中世の学問を探る 佐藤道生 [著]	定価 13,200 円(本体 12,000 円) A5判・上製カバー装 504頁+カラー口絵16頁 ISBN978-4-585-39033-6 C3091 2023年9月刊行
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

書物学 25

古典籍の 文献学

鶴見大学図書館の蒐書を巡る

『伊勢物語』、『源氏物語』などの物語、歌集・歌学書、古筆切、仏書、漢籍、洋学資料…。鶴見大学図書館では、文献資料に基づく実証的研究を伝統とし、その時々々の教職員が書物に対する深い関心と集書への熱意によって、徐々に貴重な古典籍が蒐集されてきた。そのコレクションは全国でも屈指の収蔵点数を誇っており、まさに「宝庫」と呼ぶに相応しい。鶴見大学図書館が七十年の長きにわたり、博搜と収蔵に取り組み続け、守り伝えてきた宮為とその魅力をあますところなく紹介する。

鶴見大学図書館の貴重書——これまでとこれから ●伊倉史人

第一部……物語と歌書

伊勢物語 ●久保木秀夫

源氏物語——河内本または別本を含む写本 ●田口暢之

『平家物語』長門切——鶴見大学図書館断簡を中心に 付長門切一覽 ●平藤幸

改竄された仮名遣い——契沖筆、古今和歌集」とその模刻 ●加藤弓枝

新古今和歌集——鎌倉期写の残欠本 ●田口暢之

十三代集とその周辺——「写字白」旧蔵本と尊円筆、風雅和歌集 ●石澤一志

御室撰歌合と千五百番歌合 ●田口暢之

鶴見大学図書館蔵伝後京極良経筆和漢朗詠集について ●山本まり子

古筆切・古筆手鑑 ●久保木秀夫

無訓の金沢文庫切 ●新沢典子

院政期歌学書の善本——『俊頼髓脳』を中心に ●伊倉史人

新収の古今注——伝轉法輪公教筆、古今和歌集注の紹介 ●河田翔子

第二部……仏書・漢籍・洋学・アーカイブ

鶴見大学図書館所蔵品をとおしてみる本邦における仏典の書写・請求・印刷 ●宮崎展昌

聖教を披き、「宝蔵」を思い描く ●小島裕子

禅籍ではじまる日本出版文化 ●万波寿子

仏教文化研究所——總持寺・瑠山禪師の探求と大遠忌関連事業 ●尾崎正善

鶴見大学所蔵の中国漢籍——三槐堂王乾字刊、烏臺正詒凌雲詩経 ●金文京

開国の足音——オールコック「初學者用日本文法綱要」 ●遠藤佳那子

でんしかししょう！ ●大矢一志



定価 2,200円・本体2,000円
B5判並製・オールカラー・120頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-30725-9 C1000

<p>書名 [書物学 25] 古典籍の文献学 鶴見大学図書館の蒐書を巡る 編集部(編)</p>	<p>冊数 冊</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

定価 2,200円・本体2,000円
B5判並製・オールカラー・120頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-30725-9 C1000

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉

訂正新版

図説

書誌学

古典籍を

学ぶ

「書物」という文化遺産の継承のために

有史以来蓄積されてきた「書物」は、人間の英知・思想・思考・情感といった精神活動が、最も明瞭に集約表出されたかたちで伝承されてきた、学術文芸の遺産である。

この「書物」は、なぜここにこのように存在するのか――「書物」との真摯な対話により、過去から現在、そして未来へと連なる人間の知的営みの一端に自らリンクすることが出来るのである。

定価三、八五〇円(税込)

本体三、五〇〇円(十税)

二〇二三年一月刊行

A4判並製カバー装・総カラー・二二四頁

ISBN978-4-585-30010-6 C1500

※本書は『図説書誌学』(二〇一〇年初版発行)の訂正新版です。訂正新版刊行に際し、誤字・脱字等の訂正を施しました。



I 書物との対話——書誌学研究所の視点

はじめに——書誌学とは

第一章 本の姿

表紙の役割／紙墨の表情／書物の形／変化する書物

第二章 本の様々

漢籍と和書／漢字と仮名／文字と絵／コトバとモノ

第三章 本の誕生

誕生以前／自筆本／転写本・影写本・臨写本

第四章 本の流通

版下・校正刷り／翻刻本／摸刻本／伝写本

第五章 版本の時代

宋元版／明清版／朝鮮版・越南版／五山版・古活字版／和刻本

第六章 本の再生

付点・書入れ・批評／校合／入門書・工具書

第七章 書誌学の発達

目録学の発達／版本学の発達／考証学と近代

II 斯道文庫の五十年——これまでとこれから

・ 斯道文庫の五十年

・ 書物の収集と保全

・ 椎本文庫／浜野文庫／安井文庫／坦堂文庫／コレディエ文庫／亀井家学文庫／明治仏教史編纂所蔵書／センチユリー文化財団寄託資料／大曾根文庫／河村文庫／平岡文庫／松林桂月文庫／林泰輔自筆稿本類／ガス・パルトス文庫／永島文庫／戸原文庫

・ 斯道文庫年表

・ 斯道文庫蒐書の歴史

・ 出張調査年表

・ 研究事業・研究成果・公開事業

・ 執筆者一覧／書誌学用語索引

本書の特徴

昭和三五年(一九六〇)の開設以来、書誌学の専門研究所として学界をリードしてきた斯道文庫所蔵の豊富な古典籍の中から、特に書誌学的観点から重要なものを選出、豊富なカラー図版・解説を通覧することで、書誌学の理念・プロセス・技術を学ぶことが出来る。



<p>書名</p> <h2>訂正新版 図説 書誌学</h2> <h3>古典籍を学ぶ</h3> <p>慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉</p>	<p>冊数</p> <p>定価 3,850円(税込)・本体3,500円</p> <p>A4判並製カバー装・224頁</p> <p>2023年11月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-30010-6 C1500</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

アーカイブズ学入門

定価 3,080円・本体2,800円

A5判並製カバー装・256頁・2024年7月刊行・ISBN978-4-585-30012-0 C1000

アーカイブズ学の基礎と理念を学ぶために

国立公文書館が認証アーキビスト制度を開始し、アーカイブズ学教育の重要性はますます高まっている。

これと並行して各大学・大学院でもアーカイブズ学教育を行うところは次第に増加している。

現代社会におけるアーカイブズの意義とは何なのか。

アーキビストとはどのような職務で、どのような心構えが必要なのか。

アーカイブズの定義、意義、原則、基本用語、組織やアーキビストなどについての基本知識を、

多数の図版・写真とともにわかりやすく解説。

これからアーカイブズ学を学ぶ人たちのための、必携の入門書!

民間資料や公文書の収集、整理、保存、利用等に関する専門的知識と技術の普及を目的として、国文学研究資料館が開催している「アーカイブズ・カレッジ」。その連続講義の初めての書籍化。

CONTENTS

- 第1講・現代社会とアーカイブズ……渡辺浩一
第2講・アーカイブズ資源論……藤實久美子
第3講・アーカイブズ・レコード・マネジメント論……中村崇高
第4講・民間アーカイブズ・コントロール論……太田尚宏
第5講・アーカイブズと情報コントロール……橋本陽
第6講・アーカイブズの記述編成……西村慎太郎
第7講・自然科学系のアーカイブズ……菊谷英司
第8講・アーカイブズの保存修復……金山正子
第9講・アーカイブズの共用……加藤聖文
第10講・地域とアーカイブズ……蓮沼素子
第11講・アーカイブズ管理・利用①——都道府県の例……関根豊
第12講・アーカイブズ管理・利用②——市区町村の例……河野未央



大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国文学研究資料館〈編〉

書名	冊数
アーカイブズ学入門 国文学研究資料館〈編〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 3,080円・本体2,800円

A5判並製カバー装・256頁

2024年7月刊行

ISBN978-4-585-30012-0 C1000

神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編)

古文書修復講座

歴史資料の継承のために

歴史資料を残し、伝えていくために――

日本においては、歴史を伝える資料、

特に古文書・古記録などの紙を利用した史資料が多く残されている。

これらは博物館や資料館、図書館などで管理されているもののみではなく、家屋や倉庫などの奥底、さらには襖の下張りや表紙の裏などに残され、破損・水損・虫害など、さまざまなリスクに囲まれている。

傷んでしまった史資料は、どのように対処し、管理していくべきなのか。

長年にわたり、古文書の調査のみならず保存・管理の方法論を検討し、史資料の取り扱いかたのレクチャーを行ってきた

神奈川県立日本常民文化研究所のノウハウ・知見を、

豊富なカラー写真とともに余すところなく紹介する必備の一冊。

博物館・資料館・図書館等、 古文書を取り扱う方々に必携の書

【監修者プロフィール】

神奈川県立日本常民文化研究所

日本民衆の生活・文化・歴史を多様な領域において調査・研究する、神奈川県立日本常民文化研究所の学際的研究機関。

1921年に渋沢栄一の孫である渋沢敬三が創設した“アチックミュージアムソサエティ”を前身として、日本各地の生活文化、中でも民具や水産史の研究を中心に活動を進め、戦前・戦後の日本常民文化研究所を経て神奈川県立に招致され、2021年で創立100周年をむかえた。

2023年には、神奈川県立日本常民文化研究所は博物館相当施設に指定され、常民文化ミュージアムがリニューアルオープンしている
(<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/about/>)。

【編者プロフィール】

関口博巨(せきぐち・ひろお)

1960年生まれ。神奈川県立日本常民文化研究所准教授。専門は日本近世史。

著書に『近世村落の領域と身分』(吉川弘文館、2021年)、『古文書を学ぶ』(御茶の水書房、2021年)、論文に『水軍の記憶』を編む――二神種章の歴史叙述』(『歴史と民俗』35、平凡社、2019年)などがある。

【もくじ】

はじめに…関口博巨

1.古文書修復実習開催の背景

古文書返却の旅

常民研による古文書修復のはじまり

恒例化した古文書修復実習

2.本書の構成

古文書修復(1):記録・解体(実習1)…白水智

古文書修復(2):修理―古文書の裏打ちと繕い(実習2)…山口悟史

古文書修復(3):復原(実習3)…関口博巨

下張り文書の剥離と洗浄(実習4)…平田茉莉子・中村 慧

整理(実習5)…白水 智

column

古文書を食べる虫…山口悟史

近現代史料の整理をはじめる前の手当て…平田茉莉子

水損古文書を救う―乾燥・洗浄処置と開披方法…山口悟史

古文書修理の接着剤…山口悟史

モノとしての古文書と民具―複合資料論の試み…関口博巨

民具と古文書の間…石野律子

偽作された古文書…日座久美子

表具師・経師と修復…平田茉莉子

渋沢敬三が求めた「常民古文書」…窪田涼子

時代をまたぐ史料をどのように整理するか…白水 智

神奈川県立日本常民文化研究所について

あとがき…関口博巨

執筆者紹介

カラー図版
約350点
掲載!

定価 4,180 円(本体価格 3,800 円)

B5判並製カバー装・フルカラー 192頁
ISBN978-4-585-32035-7 C1021
2024年3月刊行

書名	部数
古文書修復講座 歴史資料の継承のために 神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編者)	部
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

電子書籍（フルカラー版）同時刊行！！

本書ご購入の方には、
電子書籍を半額で販売いたします。
ご希望の方は【info@bensei.jp】まで
お問い合わせください。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

〈編〉

本 かたちと文化

古典籍・近代文献の見方・楽しみ方

写本、
版本、
明治期に
作られた書籍

日本の古い本には色々な形があり、それを構成する部品、作られた時代も様式も様々である。これらの「本」には何が書かれているのか。そもそも「本」のどこをどのように見ればいいのか。くずし字はどう読めばいい？ 捺されているハンコは何を意味しているのか？ 表紙の模様にはどのような意味が隠されているのか？ 一流の研究者たちが丁寧にわかりやすく解説する。多数の図版とともに楽しむ、充実の古典籍・近代文献の入門書！

Contents

- 刊行に寄せて……渡部泰明
はじめに——「本」を学び楽しむために……海野圭介
- 講義 1 ◎ はじめての古典籍……神作研一
「コラム」亀甲パレン」のこと……神作研一
- 講義 2 ◎ くずし字——昔の人の文字をどう読むか……桑汐里
- 講義 3 ◎ 写本——奥書・識語から本の来歴と素性を知る……海野圭介
「コラム」書物を切る——古筆切という資料……海野圭介
- 講義 4 ◎ 版本——刊記・奥付から印刷文化を探る……木越俊介
「コラム」国書データベースで複数の画像を比較するには……木越俊介
「コラム」『彩画職人部類』再刻』を検証する……木越俊介
- 講義 5 ◎ 装訂と料紙——本の「かたち」から何を読みとるか……落合博志
「コラム」写本を模倣する古活字版……落合博志
「コラム」表紙は装訂です——付新出化紙綴じ二種……神作研一
- 講義 6 ◎ 表紙文様——本を彩る意匠の世界……齋藤真麻理
「コラム」表紙ウラの楽しみ……齋藤真麻理
「コラム」文様と奈良絵本……齋藤真麻理
- 講義 7 ◎ 印——本に捺されたハンコは何を伝えているのか……松永瑠成
「コラム」史料としての貸本印……松永瑠成
「コラム」印主の調べ方……松永瑠成
- 講義 8 ◎ 江戸の出版文化——古活字版を中心に……入口敦志
「コラム」日本出版史の謎……入口敦志
- 講義 9 ◎ 近代本の世界——近代資料の作り方・（残し方・読み方）……多田蔵人
「コラム」ナポレオンの妻の物語……多田蔵人
「コラム」普通の本の大切さ……多田蔵人
「コラム」蔵書形成の意義——国文研のコレクション紹介を兼ねて……木越俊介・齋藤真麻理
- 参考文献リスト——工具書を中心に
国文研を利用しよう



書名	冊数
本 かたちと文化 古典籍・近代文献の見方・楽しみ方 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 〈編〉	冊 冊
ご送付先ご住所（通信欄）	定価 3,080 円・本体2,800円 A5判並製カバー装・288頁 2024年2月刊行 ISBN978-4-585-30011-3 C1000

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX ●03-5215-9025